

こくぶんじ 市民活動センターだより

発行 こくぶんじ市民活動センター

第二回 コラボレーションフォーラムこくぶんじ開催

10月22日（土）市内Lホールにて「コラボレーションフォーラムこくぶんじ」を開催しました。小雨模様の天候にも関わらず、約150名が参加され、「協働を進めるためのしくみづくり」と題したパネルディスカッションに聞き入っていました。後半の会場との意見交換では、「市民活動とボランティアの違いは？」「市民活動団体の人材育成方法は？」「市職員の協働に対する意識を高めるには？」など様々な質問が出され、参加者の市民活動や協働への関心の高さがうかがえました。

フォーラムに参加した市民と市職員が感想を寄せてくださいました。

降矢政治さん （西町在住）

今回のパネリストの皆さんは、比較的年齢も近いいためか、お互いの意見の疎通もスムーズで、私ども市民サイドで聴いていても一体感がありました。コーディネーターの明治大学牛山先生が上手に要点を引き出していましたので、パネリストの方々も進んで応えていたのが印象に残りました。パネリストの中で、特に杉並区役所、徳嵩淳一氏は聴衆に何とか分かってもらおうと、身振り手振りのユーモアたっぷりだったのがよかったです。それから、大きなことがひとつありました。それは前回のフォーラムでは、演壇からの一方的な講演でしたが、今回は質問用紙を配布し、聴衆である市民と講演者との意見交換がはかられた点にあります。ただ残念だったのは、せっかくの質問を質問者本人でなく、コーディネーターの牛山先生が代読していたことです。これはでき得るならば、質問者本人にさせるべきで、そうすれば質問者の熱い思いも講演者や会場の聴衆者等、全員に伝わったものと思います。質問でおもしろかったのは、先般杉並区で発生した大雨の対応のことでした。区内の市民団体がどのように動いたのかももっと詳細に知りたいと思ったほどでした。いずれにしても、多くの方が帰ってしまわず、最後まで熱心に聴いていたのには本当にびっくりし、改めて市民の意識の高さに敬意を表しました。



岡田周作さん （国分寺市政策部政策経営課）

今回のコラボレーションフォーラムで改めて考えさせられたことは、市民活動センター（以下「センター」）のあり方とNPOの組織内の世代交代に関することです。特にセンターのあり方について、藤沢市市民活動推進センター手塚さんの「NPOを多種多様なかたちでつなぐ・支援する・うごく」ということをモットーに活動しているという話がとても印象に残りました。本市においてもNPOと行政との協働事業が徐々に行われてきていますが、「市民活動団体と国分寺市との協働2004・2005」の定義である「信頼関係のもとに責任を果たし、成果をあげる」ということを考えると、行政サイドとしては正直、協働事業の相手方が応募してくれるかどうか、など不安な面もあります。協働事業を行う上のみならず、常にNPOと行政をつなぎ、NPOを支援し、うごく、というNPOと行政あるいはNPOとNPOとの調整役として、センターにはより一層大きな役割を果たしてほしいと願っております。



なお、報告書を12月下旬にセンターにて配布予定です。当センターホームページでお知らせします。当日回答できなかった質問への回答も掲載しますので、皆様是非ご覧下さい。



地域インターンシップ研修生を受け入れて

国分寺市市民生活部文化コミュニティ課担当係長 保谷正彦

市内唯一の大学である東京経済大学は、1995年から正課としてインターンシップを実施しています。今年度から「東京経済大学・国分寺地域連携推進協議会」の事業の一環として、「地域インターンシップ」を採用し、学生2名が文化コミュニティ課に配属になり、業務を体験してもらいました。

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
関係部署へ挨拶と紹介 業務の内容説明、市民 活動センター案内、事 前編集会議、NPO団 体へのインタビュー	文化コミュニティ課 担当者ミーティング に参加、地域センタ ー見学、プレイス テーション視察	市長と自治会長との「ふ れあい懇談会」の事前 準備、打合せ	「ふれあい懇談会」に 事務局として出席 準備 要点記録等	編集準備 「センターだより」	印刷、配布準備 「センターだより」

業務内容



「NPO法人冒険遊び場の会」が受託
(生涯学習推進課)

最初に来庁した時のお二人のさわやかな挨拶がとても印象的でまた規律正しい態度でインターンシップ期間中業務に励んでいました。文化コミュニティ課は市民活動団体と接する機会が多い職場なので、なるべくそういう機会を経験してもらおうようスケジュールリングしました。はたしてお二人にはどう感じたことでしょうか。ようやく学生の緊張もほぐれたところで、もう少し時間があれば、もっと特長を出せたかもしれないと思いました。学生がこの実習を通じて得たことを今後の糧としてもらえれば幸いです。

2

「地域インターンシップを経験してみてどうだったか？」

東京経済大学
現代法学部現代法学科2年
インターン生 辻川雅志



「市民と積極的に向き合って」

東京経済大学
経済学部国際経済学科3年
インターン生 鈴木裕人

この地域インターンシップに参加させていただくことが決まった時この期間に何を学ぶか目標を立てました。それは、大学生活とは違った環境に身を置くことで自分の就職について考え、職種選びの参考にしたかったこと。また、市役所が行っている業務内容、どのように地域住民と関わり政策を決めているのかを見たいと思って臨みました。こうして始まった市役所の文化コミュニティ課での実習期間は想像以上に有意義なものでした。まず、NPO活動を行っている団体や地域センターの方から、市役所と市民との協力関係や活動団体の存在意義などを聞かせていただきました。また、「市民活動センターだより」の打ち合わせから配布まで、作成過程の一部を手伝わせていただきました。また、「ふれあい懇談会」で、地域住民(自治会)と市長、市職員の意見交換の場に参加するという貴重な経験をしました。短いインターン期間でしたが、職員と住民が信頼しあい、住民が参画しやすい雰囲気作りがされていることを知り、大変驚きました。私はこの経験から、多くの人と接する時のコミュニケーション能力の向上と、どんな場面にもでも対応できる知識を身に付けるという新たな課題を発見することができました。多くのすばらしい体験をさせていただいたことに感謝するとともに、これからの大学生活でまた頑張ろうと思いました。

今回、東京経済大学では初の行政でのインターンシップということだったのですが、社会での人間関係から行政の業務まで幅広く学べたと思います。行政と市民との関わりについては、想像以上の枠組みが形成されていたのでとても驚きました。今まで、市役所の役割というのが曖昧でピンときませんでした。しかし、実際にふたを開けてみると、とても多忙で幅広い角度から物事をみていかなければ市民からの要求を解決できない仕事だということをもっと知ることができました。市民の人たちと積極的に向き合い、意見を聞き、改めてその意見を見つめなおし取り入れようと努力する。私が所属させてもらっていた、文化コミュニティ課では、市民を軸にその周りを取り囲むかのような暖かい役割を果たしていたかのように感じます。最初は、お役所は固いところだと思っていました。しかし、実際はとても柔軟なところでありまた、市民を支援していこうといった心の豊かさがあるからこそ、市民と行政との信頼関係が形成されていくのだと感じました。

(写真：右側が鈴木さん、左側が辻川さん)





第2回 視覚障がい者・高齢者の「声の応援団」 音訳グループやまばと

「音訳グループやまばと」は1977年の創立以来、文字を読むことが困難な視覚障がい者や高齢者の目の代わりとなって活動を続けています。現在、会員は35名。ほとんどの方が音訳講習会を受講し、その後「やまばと」のメンバーとなり活動しています。

主な活動としては、視覚障がい者からの図書の音訳依頼や市などからの委託を受け、月2回発行の市報のほか、「議会だより」、社会福祉協議会発行の「ふくし」、公民館だより「けやきの樹」、選挙管理委員会「しろばら」などの音訳を行っています。市報の音訳の場合、原稿のゲラを受け取り、3～6日程度の練習期間ののち、3人の担当者がグラフや表、写真の説明を含めて録音します。音訳の間違いがないか互いにチェックしあいながら、録音した後に間違いが見つかった場合の修正作業を行います。確実にできるまでには3年程度の経験とテクニックが必要だそうです。最近はテープではなく、CDに録音するデジタル化も進んでいて、その編集製作も行っています。

今年度会長の清水知子さんは「途中失明者で点字が読めない方や高齢で文字を読むのが難しい方たちから必要とされ、少しでもお役に立てることがやりがいにつながっています。また自分自身の勉強にもなります。声の高さや大きさ、アクセントなどに細心の注意を払っていますが、音訳はやればやるほど課題が見え、自分で納得のいくテープはなかなかできません。さらに正確で聞きやすい音訳をするために日々勉強です。」と話してくださいました。メンバーの方々は皆さん熱心に活動に関わっていて、月2回の定例会と月2回の勉強会にはほとんどの方が参加し、様々な音訳をボランティアで行っているというお話に頭が下がる思いでした。



繰り返し朗読をして練習する

取材のために、障害者センター（泉町）の録音室にうかがいましたが、そこでは新しくメンバーになられた方々が録音機器操作と朗読の練習の真っ最中。録音された声を聞き、ベテランさんのアドバイスを受けながら練習する真剣な眼差しと合間に感じられる楽しい雰囲気印象的でした。もうすぐ、この新人の方々の声も様々な形で市民に届けられ、活躍されることでしょう。

連絡先電話番号：042-573-3632（清水）



国分寺まつり報告



11月6日都立武蔵国分寺公園にて第22回「国分寺まつり」が開催されました。当日は市内でもおまつりが各地で催されましたが、「国分寺まつり」は模擬店175店舗やパレード、おはやしなどでとても盛大でした。当センターも「こくぶんじ市民活動センター出張窓口」として出展、「市民活動センター運営の会」のボランティアの協力でPRをしました。内容は、市民活動センターの説明（パソコンでホームページをデモンストレーション体験）、センター登録の受付と市民活動の相談などです。さらにアンケートも行い176人の方が回答してくれました。家族連れが多く、アンケートに関して、子どもたちは「市民活動」などちょっとピンとこなかったようですが、「未来の大人たち」はいずれ「市民活動」にふれあう日もくるかもしれません。最後は雨となってしまいましたが、楽しい1日でした。アンケートに回答くださった皆さん、どうもありがとうございました。



アンケートに回答する市民

なお、アンケート結果については当センターのホームページ「お知らせ」のところに掲載されています。

センターからの報告



6月以降、新たに「こくぶんじ市民活動センター」に利用登録した団体を紹介します。

国分寺シニア野球倶楽部
国分寺市交響吹奏楽団
パソコン同好会（内藤）
むさしこくぶんじ美術文化の会
しの笛の会
良い環境の会
アトリエパレット
国分寺市東恋ヶ窪4丁目自治会
たまおこしの会
歴史古街道団
ぶんげき(国分寺演劇連合)

この機関紙のタイトル募集を締め切らせていただきました。全部で20件余りの応募があり、現在編集担当者で選考中です。アイデアを寄せてくださった方々、ありがとうございました。18年度は新タイトルで発行の予定です。お楽しみに！！

「市民活動センター運営の会」からのお知らせ

「市民活動センター運営の会」では、「健康フェスティバル」を来年1月22日（日）本多公民館で開催する予定でしたが、この度、諸般の事情により、フェスティバルを一時延期することになりました。

参加を予定された各分野の市民団体の皆さんをはじめ、関係者の皆様には、大変なご迷惑をお掛けすることになりました。この紙面を借りて、深くお詫び申し上げます。

尚、延期後の処置につきましては、引き続き協議し、フェスティバルの開催に向け努力する所存です。どうぞ、ご理解とご容赦の程、お願い申し上げます。

市民活動センター運営の会理事長 小峰義夫

団体紹介コーナー

団体紹介
大募集！！

～安全・安心まちづくり CPG～
小金井警察防犯協会 防犯推進グループ

グループの結成から約2年が経過しましたが、準備期間を含めると3年半になります。構成メンバーはそれぞれが別の地域の住民で、現在7名で活動しています。したがって一人一人抱えている問題は地域によって違うのが現状です。グループの目的は*パトロールによる防犯意識の向上*犯罪発生の抑止*防犯から見た安全・安心のまちづくり*警察防犯協会の催しなどへの積極的な参画などです。実績としては*成人向け防犯講話、小学生向け防犯講話、幼稚園児向け防犯講話の開催*警察防犯協会の行事への参加などです。月一度全員が集まり連絡、打ち合わせのあと地域を定め（恋ヶ窪より西）自転車で2時間程度パトロールをしています。日常的なパトロールは、各自の地域を中心として時間と回数、方法など自由に行っています。お互いに安全には十分留意しています。

連絡先電話番号：
042-575-1578 橋本豊明



● こくぶんじ市民活動センターは年末年始（12月29日～1月3日）休館です。

編集後記

義母たちの情報網がすばらしいです。近所に新しい整骨院ができるとすぐに誰かが行き、あっという間に噂が広がるそうです。このネットワークは市民活動センターも見習うべきだなあと思う今日このごろです…。

ではみなさまよいお年を！（お）

発行 こくぶんじ市民活動センター（市民生活部文化コミュニティ課）
編集 こくぶんじ市民活動センター／市民活動センター運営の会
〒185-8501 東京都国分寺市戸倉 1-6-1
TEL 042-325-0111・内線228 / FAX 042-325-0140
e-mail kccpc@tiara.ocn.ne.jp
http://www.collabo-kokubunji.com
開館時間 9:00～17:00 年中無休（ただし年末年始を除く）
平成17年12月12日発行

